

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-61027

(P2019-61027A)

(43) 公開日 平成31年4月18日(2019.4.18)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
G 0 9 F 7/00 (2006.01) G 0 9 F 7/00 E
G 0 9 F 7/18 (2006.01) G 0 9 F 7/18 U

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2017-184965 (P2017-184965)
 (22) 出願日 平成29年9月26日(2017.9.26)

(71) 出願人 000002462
 積水樹脂株式会社
 大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号
 (72) 発明者 田村 真紀
 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 1 積水樹脂株式会社・滋賀工場内

(54) 【発明の名称】 表示体

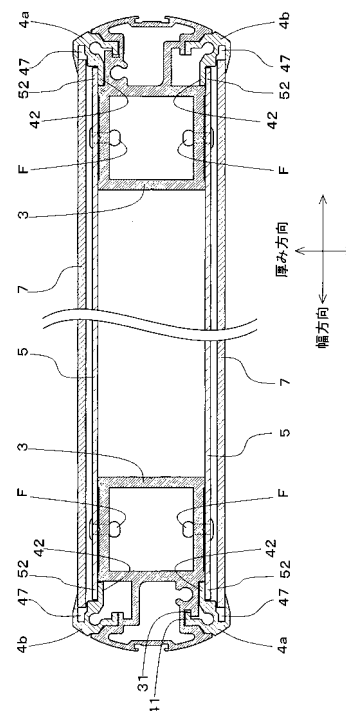
(57) 【要約】

【課題】パネル部材の両側の縁部をそれぞれ保持する各保持材のうち、一方を取り外しやすいように設計できる表示体を提供する。

【解決手段】パネル部材と、このパネル部材の両側の縁部を保持する2個の支持枠材を備える主枠材と、前記各支持枠材へ取り付け前記パネル部材の両側の縁部をそれぞれ保持する第一保持材及び第二保持材とを備え、前記第一保持材と第二保持材は前記主枠材に設けた第一係合部と第二係合部とに係合させて前記支持枠材からの脱離を防止し、前記第一保持材を前記第一係合部へ全長に亘り係合させ、前記第二保持材を前記第二係合部へ全長の一部分でのみ係合させる。

前記第二保持材をこの第二保持材の全長の一部分でのみ前記第二係合部へ係合させるので、第一保持材と比較して第二保持材を支持枠材から取り外しやすく設計することができ、前記パネル部材を主枠材へ着脱容易に設計することができる。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

パネル部材と、該パネル部材の両側の縁部を保持する枠体とを備える表示体であって、前記枠体は、2個の支持枠材を備える主枠材と、前記各支持枠材へ取り付けられて前記パネル部材の両側の縁部をそれぞれ保持する長尺体からなる第一保持材及び第二保持材とを備え、

前記第一保持材は、前記主枠材に設けられた第一係合部と係合して前記支持枠材からの脱離が防止されており、

前記第二保持材は、前記主枠材に設けられた第二係合部と係合して前記支持枠材からの脱離が防止されており、

前記第一保持材は前記第一係合部へ該第一保持材の全長に亘り係合しており、前記第二保持材は前記第二係合部へ該第二保持材の全長の一部分でのみ係合していることを特徴とする表示体。

【請求項 2】

前記枠体は、1個の支持枠材に前記第一係合部及び第二係合部が形成され、前記1個の支持枠材で2個のパネル部材の縁部が保持されていることを特徴とする請求項1に記載の表示体。

【請求項 3】

前記第二保持材は、長手方向の一方の端部で前記第二係合部へ係合し、他方の端部は第二係合部へ係合していないことを特徴とする請求項1又は2に記載の表示体。

【請求項 4】

前記第二係合部は、前記支持枠材と別体に形成されて該支持枠材へ取り付けられた係合部材によって形成されていることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の表示体。

【請求項 5】

前記第二保持材は、該第二保持材の長手方向の一部に前記第二係合部と係合不能な挿通部が形成されていることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の表示体。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、主にサインや看板などに用いられる表示体に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

表示を表すパネル部材や、表示を保護するパネル部材の縁部を枠体で保持する表示体は、従来より利用されている。このような表示体については、パネル部材の縁部を保持する部材を別体に形成して枠体へ取り付けのように設けた構成が用いられており、種々の発明が開示されている。

【0003】

例えば、特許文献1には、パネル部材の周囲を囲い支持するサイン表示用枠材であって、基板部と該基板部の両縁から側壁部を延設した略コの字状の断面をしたフレーム部と、該基板部を覆うカバー基板部と両側の該側壁部の一部もしくは全部を覆うカバー側壁部を持つ略コの字状の断面であり前記フレーム部と重合するカバー部からなり、前記フレーム部と前記カバー部とが重合したときに前記側壁部と前記カバー側壁部との間に溝部をそれぞれ形成し、該溝部に前記パネル部材の端部を挿入して該パネル部材を支持することを特徴とするサイン表示用枠材が本出願人によって提案されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献1】特開2009-086081号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

特許文献1に示されるサイン表示用枠材は、フレーム部へ別体に設けたカバー部を重合させ、フレーム部の側壁部とカバー側壁部との間に形成した溝部でパネル部材の一辺を支持するように設けているが、本発明はこれとは異なる構成により、パネル部材の縁部を枠材で保持する表示体を提供するものである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記目的を達成するため、本発明は以下のような構成としている。

10

すなわち本発明に係る表示体は、パネル部材と、該パネル部材の両側の縁部を保持する枠材とを備える表示体であって、

前記枠材は、2個の支持枠材を備える主枠材と、前記各支持枠材へ取り付けられて前記パネル部材の両側の縁部をそれぞれ保持する長尺体からなる第一保持材及び第二保持材とを備え、

前記第一保持材は、前記主枠材に設けられた第一係合部と係合して前記支持枠材からの脱離が防止されており、

前記第二保持材は、前記主枠材に設けられた第二係合部と係合して前記支持枠材からの脱離が防止されており、

前記第一保持材は前記第一係合部へ該第一保持材の全長に亘り係合しており、前記第二保持材は前記第二係合部へ該第二保持材の全長の一部分でのみ係合していることを特徴としている。

20

【0007】

本発明に係る表示体によれば、主枠材の各支持枠材へ取り付けした第一保持材と第二保持材とでパネル部材の両縁を保持するので、パネル部材を主枠材で保持できる。

また、前記第一保持材を前記主枠材に設けた第一係合部へ係合させて支持枠材からの脱離を防止させ、前記第二保持材を前記主枠材に設けた第二係合部へ係合させて支持枠材からの脱離を防止させるので、第一保持材と第二保持材を支持枠材へ容易に取り付けることができる。

また、前記第一保持材を前記第一係合部へ全長に亘り係合するので、第一保持材を支持枠材へより安定的に取り付けることができる。

30

また、前記第二保持材をこの第二保持材の全長の一部分でのみ前記第二係合部へ係合させるので、第一保持材と比較して第二保持材を支持枠材から取り外しやすく設計することができ、前記パネル部材を主枠材へ着脱容易に設計することができる。

【0008】

また、1個の支持枠材に前記第一係合部及び第二係合部を形成し、前記1個の支持枠材で2個のパネル部材の縁部を保持すれば、前記枠材で2個のパネル部材を保持できるので、好ましい。

【0009】

また、前記第二保持材を、長手方向の一方の端部で前記第二係合部へ係合させ、他方の端部を第二係合部へ係合させなければ、前記第二保持材を長手方向へ移動させて、第二係合部との係合を外し、第二保持材を主枠材から容易に取り外せるように設計することができるので、好ましい。

40

【0010】

また、前記第二係合部を、前記支持枠材と別体に形成させてこの支持枠材へ取り付けした係合部材によって形成すれば、第二係合部の配置などを容易に変更可能に設計することができ、前記第二保持材の主枠材からの取り外しを容易に設けるか否かを必要に応じ選択して設計できるので、用途に応じた表示体を容易に形成でき、好ましい。

【0011】

また、前記第二保持材の長手方向の一部に前記第二係合部と係合不能な挿通部を形成す

50

れば、前記第二保持材を長手方向へ移動させて前記挿通部と第二係合部との位置を合わせること、前記第二保持材と主枠材との係合を外し、第二保持材を主枠材から容易に取り外せるように設けることができるので、好ましい。

【発明の効果】

【0012】

本発明に係る表示体によれば、パネル部材の両側の縁部をそれぞれ保持する第一保持材と第二保持材のうち、第一保持材と比較して第二保持材を主枠材からより取り外しやすく設計することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】本発明に係る表示体の実施の一形態を示す、(イ)は正面図であり、(ロ)は側面図である。

【図2】図1の表示体の平面図である。

【図3】表示体の横断面を示す、図1のA-A断面図である。

【図4】図3の図中左側の支持枠材付近を拡大した図である。

【図5】図4の支持枠材を示す断面図である。

【図6】図4の第一保持材を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

発明の実施の形態を図面に基づき具体的に説明する。

図面において、1は表示体である。

表示体1は、縦長矩形の平板状に形成したパネル部材7と、このパネル部材7を支持する枠体2とを備えており、パネル部材7の板面に表示を形成して表すように設けている。

前記枠体2は、幅方向に間隔をあけて配置した2個の支持枠材3と、各支持枠材3の間に架け渡して取り付けられた横材5とで構成される主枠材を備えている。

前記パネル部材7は幅方向の両縁を各支持枠材3に支持させて取り付けられており、具体的には、パネル部材7の両縁を各支持枠材3へ取り付けられた第一保持材4a及び第二保持材4bでそれぞれ保持している。

前記表示体1は、2個のパネル部材7を有しており、各パネル部材7は表示体1の厚み方向に間隔をあけて配置させ、幅方向の両縁をそれぞれ前記各支持枠材3に支持させて取り付けられている。

【0015】

前記主枠材の横材5は、横長矩形の平板形状に形成しており、その幅方向両端の板面を各支持枠材3へ当接させて固定させている。

前記横材5は、上下方向に間隔をあけて3個配置させて前記各支持枠材3の前側に取り付けると共に、上下方向に間隔をあけて3個配置させて各支持枠材3の後側に取り付けられており、合計6個の横材5を前記各パネル部材7の間に配置して取り付けられている。

【0016】

図2は図1の表示体1の平面図である。

前記枠体2は、前記各支持枠材3の上端間に架設させて取り付けられた天板6を備えている。

前記天板6は、上下方向へ挿通させたねじN1を各支持枠材3へ螺挿させて取り付けられており、また、上下方向へ挿通させたねじN2を前記第一保持材4a及び第二保持材4bへ螺挿させて取り付けられている。

前記天板6は、その一部が前記各パネル部材7の真上に位置するように配置させており、各パネル部材7が上方へ移動して枠体2から脱離することを防止している。

また、前記ねじN1を螺挿させた各支持枠材3や、前記ねじN2を螺挿させた第一保持材4a及び第二保持材4bは、天板6によって上端における移動が規制される。

【0017】

図3は表示体1の横断面を示す、図1のA-A断面図であり、図4は図3の図中左側の支持枠材3付近を拡大した図である。

10

20

30

40

50

前記支持枠材 3 は、アルミニウム合金の押出成形で形成した長尺体であり、全長に亘り同一の断面形状に形成している。また、幅方向へ間隔をあけて配置した 2 個の前記各支持枠材 3 は、それぞれ同じ断面形状に形成している。

前記各支持枠材 3 には、各パネル部材 7 の幅方向の両縁をそれぞれ保持する前記第一保持材 4 a と第二保持材 4 b とを取り付けており、具体的には、図 3 の左側に配置した支持枠材 3 の前側と後側にそれぞれ第一保持材 4 a と第二保持材 4 b を取り付けると共に、図 3 の右側に配置した支持枠材 3 の前側と後側にそれぞれ第二保持材 4 b と第一保持材 4 a とを取り付けている。即ち、前記各パネル部材 7 は、左右の一方の縁部を第一保持材 4 a に保持させ、他方の縁部を第二保持材 4 b に保持させて、前記枠体 2 へ取り付けている。

尚、前記第一保持材 4 a と第二保持材 4 b は、それぞれアルミニウム合金の押出成形で形成した長尺体であり、全長に亘り同一の断面形状に形成している。また、第一保持材 4 a と第二保持材 4 b は同じ断面形状に形成している。

前記第一保持材 4 a と第二保持材 4 b は、長手方向の大きさを、保持する前記パネル部材 7 の縁部に対応する大きさにそれぞれ形成している。

【0018】

図 5 は図 4 の支持枠材 3 を示す断面図である。

支持枠材 3 は長手方向の両端が開口する筒状の長尺体である。

支持枠材 3 の筒壁には、所謂ビスホールを構成する断面円形のねじ受け溝 3 6 を形成しており、前記天板 6 に挿通させた前記ねじ N 1 の雄ねじ部分を支持枠材 3 の上端から前記ねじ受け溝 3 6 の内側へ螺挿可能に設けている。

【0019】

図 5 に示す配置において、支持枠材 3 には、図中下方である厚み方向前側に前記第一保持材 4 a を取り付け、図中上方である厚み方向後側に前記第二保持材 4 b を取り付けるように設けている。

前記支持枠材 3 の図中下方向である前側には、前記第一保持材 4 a が係合する第一係合部 3 1 を形成している。

第一係合部 3 1 は、厚み方向外側へ開口する溝形状に形成しており、開口側の溝幅の大きさを底側よりも小さく形成している。詳細には、前記第一係合部 3 1 は、支持枠材 3 の前面から厚み方向内側へ向けて窪み、更にその溝底から幅方向内側へ向けて延出するように窪む、略 L の字形の断面形状の溝に形成している。

尚、上記の幅方向内側の内側とは、表示体 1 全体から見ての内側方向を意味している。

前記第一係合部 3 1 は、その溝の内側へ後述する第一保持材 4 a の第一係着部 4 1 を挿入させ、前記第一保持材 4 a が支持枠材 3 の厚み方向外側へ脱離不能に係合するように設けている。

【0020】

前記支持枠材 3 の厚み方向後側には、前記第二保持材 4 b の第一係着部 4 1 を収納可能な凹部 3 2 を形成している。

凹部 3 2 は、厚み方向外側へ開口する溝形状に形成しており、その開口側の溝幅の大きさを前記第一係着部 4 1 の幅より大きく形成している。即ち、前記凹部 3 2 は、その溝の内側へ挿入した保持材 4 b の第一係着部を支持枠材 3 の厚み方向外側へ脱離可能に収納するように設けている。

前記凹部 3 2、第一係合部 3 1、及びねじ受け溝 3 6 は、長手方向に沿って支持枠材 3 の全長に亘り形成している。

【0021】

図 6 は図 4 の第一保持材 4 a を示す断面図である。

第一保持材 4 a には、所謂ビスホールを構成する断面円形のねじ受け溝 4 6 を形成しており、前記天板 6 に挿通させた前記ねじ N 2 の雄ねじ部分を第一保持材 4 a の上端から前記ねじ受け溝 4 6 の内側へ螺挿可能に設けている。

【0022】

前記第一保持材 4 a には、第一係着部 4 1 を厚み方向へ突出させて形成している。

前記第一係着部 4 1 は、前記支持枠材 3 の第一係合部 3 1 の内側形状に対応する外形に形成しており、略 L の字形の断面形状に形成している。

前記第一係着部 4 1 は、支持枠材 3 の長手方向の端から前記第一係合部 3 1 の内側へ差し込むように挿入して、係合させるように設けている。

【0023】

前記第一保持材 4 a には、前記パネル部材 7 の縁部を挿入可能な保持溝 4 7 を形成している。

前記保持溝 4 7 は、前記第一係着部 4 1 を支持枠材 3 の第一係合部 3 1 へ係合させた状態で、前記パネル部材 7 の縁部を内側へ挿入させて、厚み方向へ脱離不能に保持するように設けている。

10

【0024】

前記第一保持材 4 a には、厚み方向における前記第一係着部 4 1 と保持溝 4 7 との間の位置に、第二係着部 4 2 を形成している。

図 6 に示す第一保持材 4 a は、前記第二係着部 4 2 を、幅方向内側へ突出する平板状に形成している。

【0025】

前記ねじ受け溝 4 6、第一係着部 4 1、及び第二係着部 4 2 は、長手方向に沿って第一保持材 4 a の全長に亘り形成している。

また、前記第二保持材 4 b は、第一保持材 4 a と同じ断面形状に形成しており、第一保持材 4 a と同様に、ねじ受け溝 4 6、第一係着部 4 1、及び第二係着部 4 2 を長手方向に沿って全長に亘り形成している。

20

【0026】

図 3、4 に示すように、前記各棧部材 5 は、ねじやリベットからなる固定部材 f によって幅方向の端部を支持枠材 3 へ固定し、各支持枠材 3 の間に架け渡すように取り付けられている。

各棧部材 5 を取り付けることにより、前記各支持枠材 3 は互いの配置が変化するような移動が規制される。

【0027】

前記第一保持材 4 a は、その第一係着部 4 1 を第一係合部 3 1 へ係合させて支持枠材 3 に取り付けており、前記係合により幅方向外側へ脱離不能となされている。前記第一係着部 4 1 と第一係合部 3 1 との係合は前記第一保持材 4 a の全長に亘り、第一保持材 4 a を支持枠材 3 から取り外す場合は、前記天板 6 を取り外し、第一保持材 4 a を長手方向へ移動させてその下端に至るまで支持枠材 3 の上端から抜き外す必要がある。

30

また、前記第一保持材 4 a を支持枠材 3 へ取り付けられた状態において、その第二係着部 4 2 の幅方向外側に、支持枠材 3 へ取り付けられた前記各棧部材 5 の端部 5 2 が位置するように配置させている。

【0028】

前記第二保持材 4 b は、その第一係合部 4 1 を凹部 3 2 へ収納させて、支持枠材 3 へ取り付けられている。

また、第二保持材 4 b の支持枠材 3 への取り付けにおいて、支持枠材 3 へ取り付けられた前記棧部材 5 を前記第二保持材 4 b へ係合する係合部材として機能させている。

40

具体的には、図 3、4 に示すように、支持枠材 3 へ取り付けられた前記棧部材 5 の端部 5 2 を前記第二保持材 4 b の第二係着部 4 2 の幅方向外側に配置させ、この第二係着部 5 2 へ係合する第二係合部として機能させている。

第二係合部となされる前記端部 5 2 と第二係着部 4 2 との係合により、前記第二保持材 4 b の幅方向外側への脱離を防止している。

【0029】

第二保持材 4 b を支持枠材 3 から取り外す場合は、前記天板 6 を取り外し、第二係合部となされる前記端部 5 2 と第二係着部 4 2 との係合が外れるまで第二保持材 4 b を長手方向へ移動させれば、前記第二保持材 4 b を取り外すことができる。

50

図 1 ~ 4 に示す表示体 1 において、前記第二保持材 4 b は、その第二係着部 4 2 を、上下方向に間隔をあけて配置させた 3 個の棧部材 5 の各端部 5 2 全てに係合させている。この第二保持材 4 b を支持枠材 3 から取り外す場合には、天板 6 を取り外した後、最も上方に配置した棧部材 5 の端部 5 2 よりも上方に至るまで前記第二保持材 4 b を長手方向上方へ移動させれば、支持枠材 3 から取り外すことができる。そして、図 1 に示すように、最も上方に位置する棧部材 5 の上端を前記支持部材 3 の上端に配置しているので、前記第二保持材 4 b は、前記第一保持材 4 a と同様に、その下端が支持部材 3 の上端から抜けるまで移動させなければ支持枠材 3 から取り外すことができないように設けている。

【 0 0 3 0 】

前記表示体 1 は、前記第一保持材 4 a よりも容易に、前記第二保持材 4 b を前記支持部材 3 から取り外し可能に設けることができる。

具体的には、図 1 ~ 4 の表示体 1 では、支持枠材 3 へ取り付けられた各棧部材 5 を全て第二保持材 4 b へ係合する係合部材として機能させているが、一部の棧部材 5 を係合部材として機能しないように設けることで、第二保持材 4 b をより容易に支持部材 3 から取り外し可能とすることができる。

例えば、上下方向に間隔をあけて 3 個配置させた各棧部材 5 のうち、最も上方に配置した前記棧部材 5 を若干短く形成して、その端部 5 2 を前記第二係着部 4 2 の厚み方向外側へ配置させなければ、前記第二保持材 4 b の第二係着部 4 2 は、長手方向上方の端部では前記端部 5 2 が構成する第二係合部へ係合せず、長手方向下部および中央付近でのみ前記端部 5 2 からなる第二係合部へ係合するように設けられる。このため、前記第二保持材 4 b を支持部材 3 の上端まで移動させることなく、上方から 2 番目に配置した棧部材 5 の端部 5 2 と第二係着部 4 2 との係合が外れるまで前記第二保持材 4 b を移動させ、更に前記第二保持材 4 b を厚み方向へ移動させて凹部 3 2 から第一係着部 4 1 を抜き外せば、第二保持材 4 b を支持枠材 3 から取り外すことができる。

また、前記 3 個の棧部材 5 のうち、最も下方に配置させた棧部材 5 の端部 5 2 のみを前記第二係着部 4 2 の厚み方向外側へ配置させるように設ければ、前記第二保持材 4 b の第二係着部 4 2 は、長手方向下方の端部でのみ前記端部 5 2 からなる第二係合部へ係合するように設けられる。このため、前記最下方に配置した棧部材 5 の端部 5 2 と第二係着部 4 2 との係合が外れるまで前記第二保持材 4 b を長手方向上方へ移動させ、更に第二保持材 4 b を厚み方向へ移動させれば、支持枠材 3 から取り外すことができるので、前記第二保持材 4 b の支持枠材 3 からの取り外しが更に容易なものとなされる。

前記第二保持材 4 b を支持枠材 3 から容易に取り外せるように設ければ、支持枠材 3 で支持するパネル部材 7 の交換がより容易にできるので、表示体 1 の表示の変更やリニューアルが簡単にできる。

【 0 0 3 1 】

また、前記各棧部材 5 の一部を係合部材として機能しないように設ける上記の構成とは異なる構成によって、前記第一保持材 4 a よりも容易に、前記第二保持材 4 b を前記支持部材 3 から取り外し可能に設けることができる。

具体的には、図 1 ~ 4 に示す表示体 1 の第二保持材 4 b においては、第二保持材 4 b と係合する係合部材として機能する前記棧部材 5 のうち、最も上方に配置する棧部材 5 の上端を前記各支持枠材 3 の上端に位置させて取り付けているが、この棧部材 5 の上端を前記各支持枠材 3 の上端より下方に位置させて取り付けることで、前記第二保持材 4 b を前記支持枠材 3 の上端に至るまで移動させることなく、前記第二係着部 4 2 と棧部材 5 の第二係合部との係合を外して、第二保持材 4 b を前記支持枠材 3 から取り外し可能も設けることができる。

【 0 0 3 2 】

また、図 1 ~ 4 に示す表示体 1 の第二保持材 4 b においては、前記第二係着部 4 2 を第二保持材 4 b の長手方向の全長に亘り形成しているが、この第二係着部 4 2 に前記端部 5 2 からなる第二係合部へ係合不能な切り欠き状の挿通部を形成することで、前記第二保持材 4 b を支持部材 3 から容易に取り外せるように設けることができる。

前記挿通部は、前記端部 5 2 の上下方向の大きさよりも若干大きな切り欠き状に形成すると共に、前記第二保持材 4 b を支持枠材 3 へ取り付け付けた状態において、前記端部 5 2 の下方に対応する位置に配置させて設ける。

このように設けた第二保持材 4 b は、表示体 1 から天板 6 を取り外し、第二保持材 4 b を長手方向上方へ移動させて前記挿通部と前記端部 5 2 の位置を一致させれば、前記端部 5 2 と第二係着部 4 2 との係合が外れるので、前記第二保持材 4 b を厚み方向外側へ移動させて前記支持枠材 3 から取り外すことができる。

【 0 0 3 3 】

尚、本発明に係る表示体 1 は、上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。

例えば、前記表示体 1 は、パネル部材 7 の板面に表示を形成して表すように設けているが、これに限るものではない。前記パネル部材 7 を透明板材で形成し、パネル部材 7 よりも厚み方向内側へ配置した別の表示部材を保護する保護カバーとして機能するように設けても良い。

【 0 0 3 4 】

また、前記表示体 1 は、前記各支持枠材 3 の長手方向を上下方向へ向けて配置させているが、これに限るものではなく、長手方向を横方向へ向けて配置させてもよく、他の方向へ向けて配置させても良い。

【 0 0 3 5 】

また、前記表示体 1 は、厚み方向の前側及び後側にそれぞれ 1 個ずつ合計 2 個のパネル部材 7 を配置して、主枠材の前記支持枠材 3 に支持させているが、これに限るものではなく、前側又は後側にパネル部材 7 を 1 個のみ配置して支持枠材 3 で支持させてもよい。

また、前記第一保持材 4 a 及び第二保持材 4 b に左右の両縁を保持させたパネル部材 7 を上下方向へ段積み状に取り付けて、複数のパネル部材 7 を表示体 1 の厚み方向前側や後側に配置させてもよい。

【 0 0 3 6 】

また、前記表示体 1 は、第二保持材 4 a の第二係着部 4 2 へ係合させるために主枠材に設ける第二係合部を、支持枠材 3 へ取り付け付けた枠部材 5 の端部 5 2 で構成しているが、これに限るものではなく、枠部材 5 とは異なる別の部材を支持部材 3 へ取り付け付けて前記第二係合部を構成してもよく、別部材ではなく支持部材 3 に一体的に形成させてもよい。しかしながら、前記第二係合部を枠部材 5 の端部 5 2 で形成すれば、第二係合部をより容易に主枠材へ設けることができるので、好ましい。

【 0 0 3 7 】

また、前記表示体 1 は、第一保持材 4 a と第二保持材 4 b とを断面形状が同一の長尺体に形成しているが、これに限るものではなく、断面形状を異ならせても良い。しかしながら、第一保持材 4 a と第二保持材 4 b の断面形状を同一に形成すれば、部材の調達がより容易となるので、好ましい。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 8 】

- 1 表示体
- 2 枠体
- 3 支持枠材
- 3 1 第一係合部
- 3 2 凹部
- 3 6 ねじ受け溝
- 4 a 第一保持材
- 4 b 第二保持材
- 4 1 第一係着部
- 4 2 第二係着部
- 4 6 ねじ受け溝

10

20

30

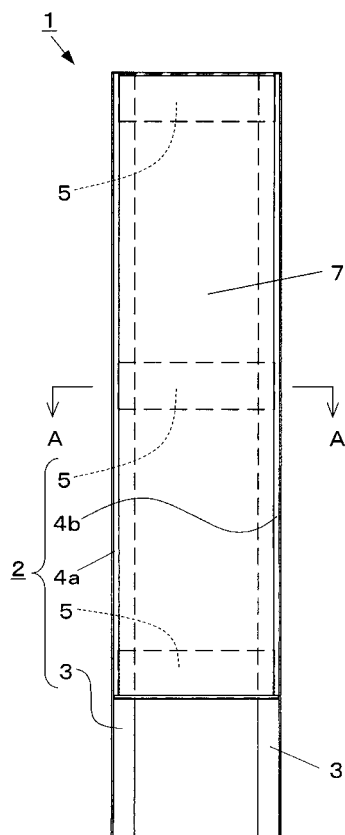
40

50

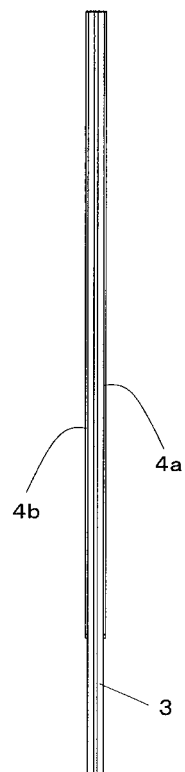
- 4 7 保持溝
- 5 棧部材
- 5 2 端部
- 6 天板
- 7 パネル部材
- F 固定部材

【図 1】

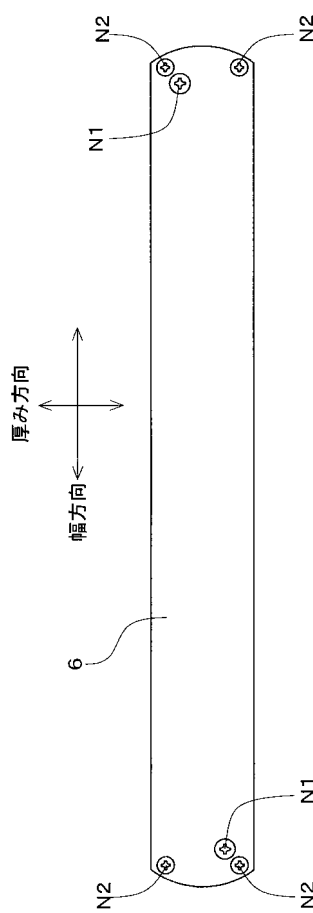
(イ)



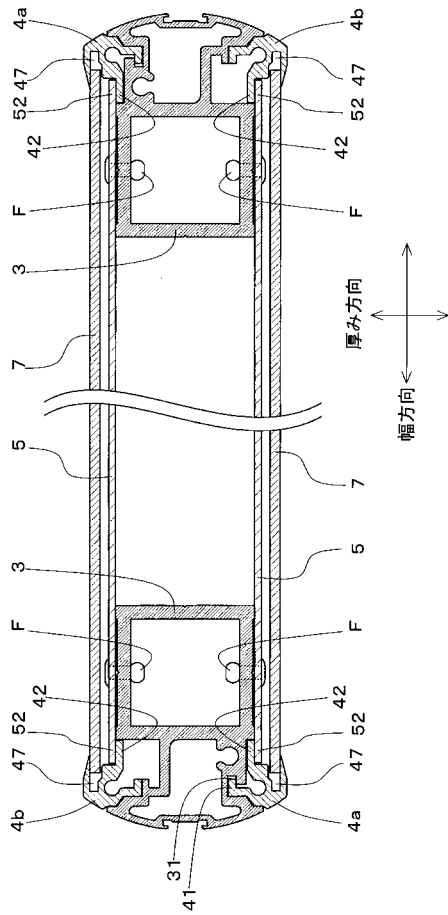
(ロ)



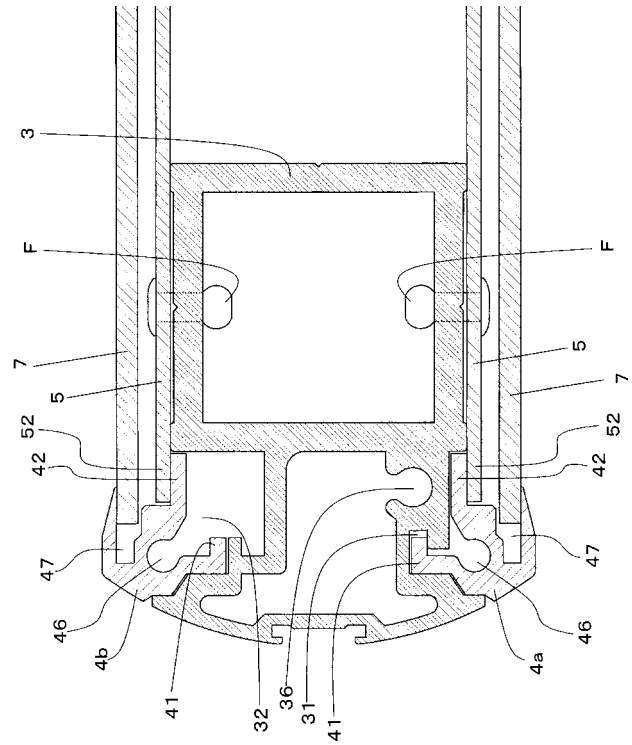
【図 2】



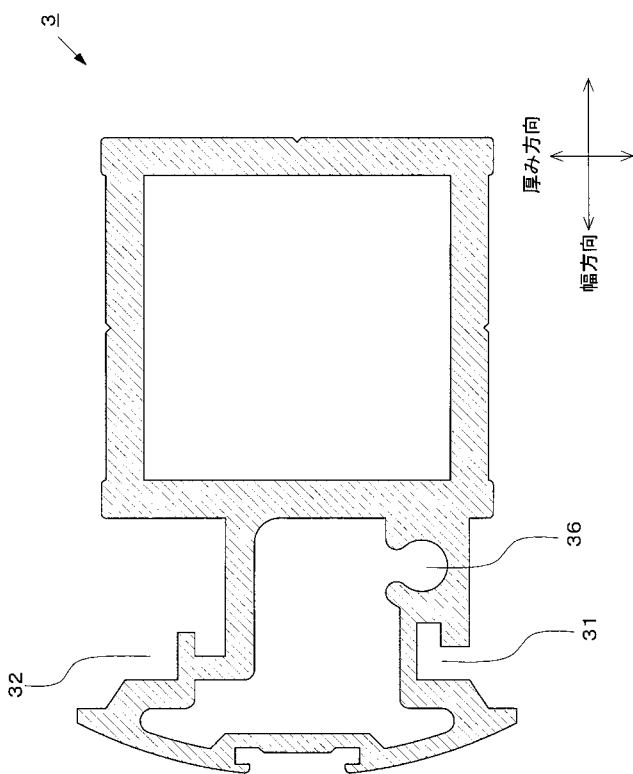
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

